

第 62 回インテリア設計士資格検定

<1 級学科試験・論文課題>

現在、企業や教育機関など社会のさまざまな分野におけるSDGs(持続可能な開発目標)への取り組みが報道され、認識も広がりつつある。この国際社会共通の課題であるSDGsはその目標が多方面に及ぶ中、われわれインテリア界にふさわしい取り組み目標と、その実践としてどのような活動が想定されるか。以下の職務分野の中から1つを選び、設定された17の目標から複数を選択し、実践内容を具体的に述べなさい。

- 1) インテリア設計・デザインを主たる業務とする分野
- 2) 材料・設備機器のハンドリングや工事・施工を主たる業務とする分野
- 3) 営業・販売を主たる業務とする分野

1. 試験時間：1 時間 30 分（午前 10 時～11 時 30 分）
2. 記入用紙：配布された指定の論文用紙に記入する。文字数は 800 字以上 1000 字未満とする。
3. 注意事項
 - (1) 論文用紙に、受験票に記載の協会名(都道府県名のみ)と受験番号を必ず記入してください。
 - (2) 試験監督員の「開始」の合図に従って書き始めてください。
 - (3) 質問があるときは、黙って手をあげてください。ただし、内容に関する質問にはお答えできません。
 - (4) 試験終了時間前に解答ができあがった場合は、試験監督員の指示に従ってください。
 - (5) 「終了」の合図と同時に終了し、論文用紙を監督員の指示に従って提出し、速やかに退室してください。
 - (6) 参考資料、原稿、コピー等の持ち込みはできません。
 - (7) この用紙はお持ち帰りください。
 - (8) 手洗いに立ちたいときは黙って手をあげ試験監督員の指示に従ってください。ただし、原則として学科試験中のトイレ休憩は認められません。
 - (9) 携帯電話の電源は、必ず切っておいてください。

第62回インテリア設計士資格検定試験

<1 級 論 文 用 紙>

<課題> 現在、企業や教育機関など社会のさまざまな分野におけるSDGs(持続可能な開発目標)への取り組みが報道され、認識も広がりつつある。この国際社会共通の課題であるSDGsはその目標が多方面に及ぶ中、われわれインテリア界にふさわしい取り組み目標と、その実践としてどのような活動が想定されるか。以下の職務分野の中から1つを選び、設定された17の目標から複数を選択し、実践内容を具体的に述べなさい。

- 1) インテリア設計・デザインを主たる業務とする分野
- 2) 材料・設備機器のハンドリングや工事・施工を主たる業務とする分野
- 3) 営業・販売を主たる業務とする分野 (文字数は800字以上1,000字以内とする)

1/3

1) インテリア設計・デザインを主たる業務とする分野

現在、様々な分野でSDGs(持続可能な開発目標)が謳われていますが、インテリア業界として取り組む目標について実践する内容を3つ挙げます。

一つ目は「住み続けられるまちづくりを」です。少子高齢化の背景をうけて核家族化が進み新築時の利用形態から大きく変わり、部屋が余ってしまう、もしくは入居する人が不在となる事例が出ています。そのまま放置しておけば空家となり地域の防犯上も問題となります。しかし、地域活性化に寄与するためにもリノベーションやリフォームでインテリ

100

200

アを一新し、最近見られるシェアハウスや民泊施設への活用、もしくはUターン、Iターンで住まいを求める次の利用者へ入居先を提供すれば解決できます。実業務の中でも壁クロスを一面デザイン性の高いクロスへ変えるだけで入居する年齢層が変わるほど影響が大きいく、住み続けられるまちへと変わります。

二つ目は「つくる責任、つかう責任」です。

循環型社会を形成する中で省エネやリサイクルへの取り組みが重要視されています。今までは「つくる」ことに集中し、その後の使われ方や処分される状況に目が向いていませんでしたが、長く使うことで資源の有効活用が図れ、処分材を回収したり処理方法を提案することによって社会全体としてエコロジーの考え方が浸透していきます。サステイナブルな考えを元に回収材をリファインして販売する過程を次の使用者と共に検討すれば創意工夫と愛

着が生まれ、使い始めた当初から大切に扱うスタイルが自然に引き継がれていきます。

三つ目は「気候変動に具体的な対策を」です。買い替えに伴う廃棄物の増加や焼却によるCO₂の排出について設計段階から抑制策を講じる必要があります。身近な取り組みでは間伐材を取り入れた家具や古材活用によりCO₂の固定化に取り組みます。今まで使っていた家具を作り直すことで人によっては思い出も大切に残すことができます。尚、CO₂の輩出は産業、運輸関連では下降傾向が見られますが家庭生活ではまだ上昇傾向が見られます。解決への取り組みとして家庭では光熱費の調整が一番分かりやすく、夏季は窓際のカーテンやブラインドで日射を遮り、冬季はペアガラスにより熱伝導を抑え、高性能となったエアコンなどの空調機器と併用することでCO₂削減に効果が期待できます。

700

800

900

1000